

第12回山ノ内町立学校づくり準備委員会 次第

日 時 令和8年6月17日(水)午後5時30分

場 所 山ノ内町文化センター 3階ホール

1.開 会

2.あいさつ

3.報告事項

(1)この会議のスタンスと新しい学校のコンセプトについて・資料1

(2)前回会議の結果について・資料2

(3)設計プロポーザル 提案内容の共有

(4)まちづくりこども委員会の開催結果について

4.会議事項

(1)校名の検討方法について・資料3

5.その他

次回準備委員会

日時:令和8年7月22日(水)午後3時15分から

場所:町文化センター3階ホール

第一部:午後3時15分～午後4時40分(まちづくりこども委員会との意見交換)

第二部:午後4時50分～午後6時 予定

6.閉 会

令和8年度山ノ内町立学校づくり準備委員会名簿

職 名	所属等	氏 名	備 考
委 員	東小学校PTA	関 裕美子	
委 員	南小学校PTA	滝沢沙也加	
委 員	西小学校PTA	外山 平	
委 員	山ノ内中学校PTA	山口 辰也	
委 員	かえで保育園保護者会	望月和佳奈	
委 員	ほなみ保育園保護者会	下田 玲奈	
委 員	よませ保育園保護者会	畔上 俊樹	
委 員	東小学校長	北垣内 博	
委 員	南小学校長	中村まゆみ	
委 員	西小学校長	神田 和幸	
委 員	山ノ内中学校長	山口 近	
委 員	園長会（すがかわ保育園）	櫻井 裕香	
委 員	山ノ内町社会福祉協議会	鈴木 浩史	
委 員	子ども会育成会連絡協議会長	小林 正俊	
委 員	議会社会文教常任委員会委員長	高田 佳久	
委 員	学識経験者（学校長経験者）	原 隆文	
委員長	学識経験者（信州大学）	伏木 久始	
委 員	里山ようちえん おやまのおうち	山崎 龍平	
委 員	ICT教育コーディネーター	清水 智	
委 員	主任児童委員	佐藤 重子	
副委員長	社会教育委員	羽田 吉彦	
委 員	教職員経験者	湯本 文洋	
委 員	教職員経験者	宮寄佐智子	
委 員	公募委員	新井 彩香	
委 員	公募委員	杉戸 香奈	

オブザーバー	議会社会文教常任委員会副委員長	畔上 恵子	
オブザーバー	令和 7 年度準備会委員	南條信太郎	
オブザーバー	令和 7 年度準備会委員	平原 剛	
オブザーバー	令和 7 年度準備会委員	小湊 崇法	
オブザーバー	令和 7 年度準備会委員	山戸真理子	
オブザーバー	令和 7 年度準備委員会オブザーバー	金井 学	
オブザーバー	令和 7 年度準備委員会オブザーバー	瀬川 夏実	

ユースサポーター	長野吉田高校 1 年	山崎 蒼太	
ユースサポーター	須坂高校 2 年	養田 笑奈	
ユースサポーター	長野清泉女学院高校 1 年	中山 咲花	
ユースサポーター	長野大学 4 年	畔上大空雅	
ユースサポーター	國學院大學 4 年	山本 智也	
ユースサポーター	金沢学院大学 1 年	宮崎 千優	
ユースサポーター	中野西高校 1 年	宮崎 春佳	
ユースサポーター	中野西高校 2 年	小林 音和	
ユースサポーター	中野西高校 2 年	町田 速斗	
ユースサポーター	中野西高校 2 年	佐藤 源太	

事務局	教育長	竹内 延彦	
	こども未来課長	山本 敏幸	
	こども未来課学校統合準備係長	佐藤 洋介	
	こども未来課学校統合準備係	新井 宥佑	
	こども未来課学校統合準備係	菅原 勇介	

令和8年6月17日 第12回学校づくり準備委員会



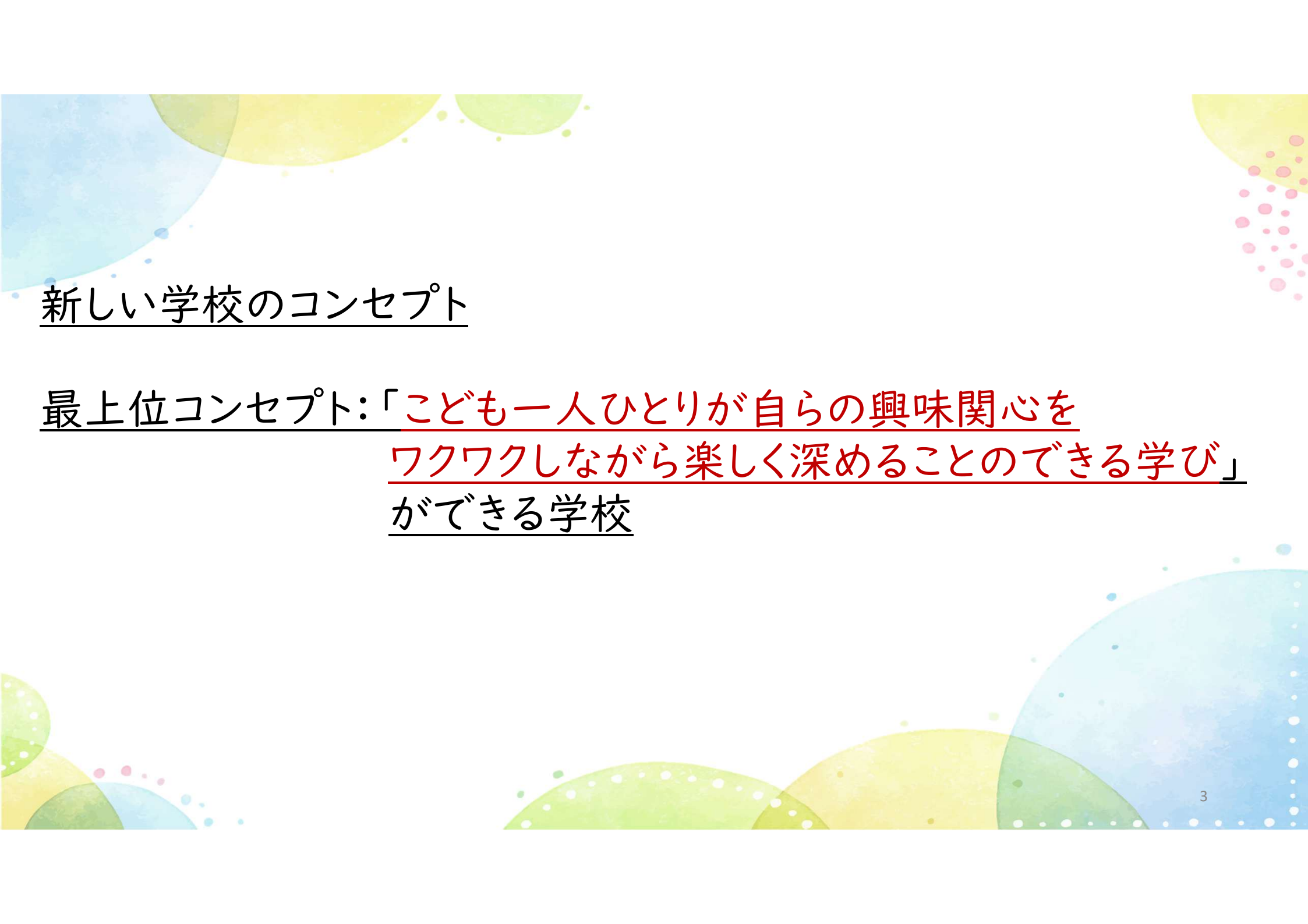
そもそもの話 ～この会議のスタンスと新しい学校のコンセプト～

準備委員会という会議の考え方やスタンス

事務局の願い:従来の会議のイメージを少し崩した対話の時間にしていきたい

	従来型の行政の会議のイメージ	学校づくり準備委員会の姿
主役は誰?	参加者(委員)が話を聞く時間	参加者(委員)が話をする時間
座席と環境	全員前向き、口の字型の環境	小グループで常に話せる環境
スタンス	委員長や事務局が情報を与える時間	委員と事務局がとともに案を出し高める時間 思いつきやつぶやき大歓迎
委員の アクション	挙手をして発言し 委員は事務局の提案に対し賛否を示す	自由に対話しアイデアを広げる
スタイル	一人ひとりにドリンクが置いてある	複数のドリンクから好きなものを選ぶ チョコレートなどのお菓子をつまむ(※)
場の設定理由	決定的場	共創の場

※Fika式:コーヒーや甘いものを楽しみながら雑談をする時間。心理的安全性を高め
チームのコミュニケーションを円滑にするためのミーティング手法。
(席をたってお菓子やドリンクをどんどんもって行ってください!!)



新しい学校のコンセプト

最上位コンセプト:「こども一人ひとりが自らの興味関心を
ワクワクしながら楽しく深めることのできる学び」
ができる学校

山ノ内町で大切にしたい4つの学び



ESD（持続可能な開発のための教育）

町全体が教室。
地域資源を活用した
体験重視の学び。



グローバル教育

英語でつながる、
世界と広がる。
異文化交流と多文化共生。



スポーツ芸術

体を動かし、心を動かす。
豊かな感性と健康な体を育む。



人権教育

違いを認め、自分も相手も大切に。
誰一人取り残さない。

4つの学びを支える「たて」と「よこ」のつながり

幼児期からのつながりも大切にしたい町で一貫した教育の実施

学年をこえた「たてのつながり」。
7歳から15歳まで切れ目のない一貫した成長。中1ギャップの解消。

義務教育学校

15歳

14歳

13歳

12歳

11歳

10歳

9歳

8歳

7歳



この仕組みが4つの学びを充実させます

コミュニティ・
スクール

地域全体が学びのフィールドとなる「よこのひろがり」。
地域づくりの拠点。

こどもも大人も互いに学び育つコミュニティ・スクール

義務教育学校とコミュニティ・スクールの仕組みが、4つの学びを充実させます。

「たてのつながり」を育む義務教育学校

こどもたちが年齢(学齢)をこえてつながる学校にしたい!

○義務教育学校の概要

- ① 「小学校」「中学校」という区別なく**1つの学校**となります。
- ② 小学校から中学校までの**9年間一貫した教育**を行います。
- ③ **1年生で入学し、9年生で卒業**になります。
- ④ 校長先生は一人、先生方も一つの教職員組織となります。
- ⑤ 県内でもすでに義務教育学校があります。(右参照)

○義務教育学校の良さの例

- ① いわゆる「**中一ギャップ**」の**緩和・解消**が期待
- ② **異学年交流**で精神的な発達や社会性を養うことが期待
- ③ 柔軟性のあるカリキュラムの設定
- ④ 教科担任制や乗り入れ授業等による指導が充実
- ⑤ 教職員間で児童生徒の状況等が共有されやすい
- ⑥ 教職員数が増えることで得やすくなる研修の機会



○長野県内の義務教育学校

- ・ 信濃町立信濃小中学校
 - ・ 大町市立美麻小中学校
 - ・ 根羽村立根羽学園
 - ・ 塩尻市立檜川小中学校
 - ・ さかえ村立栄小中学校
- 岡谷市、小諸市にも開校予定

○一般的には義務教育学校の課題として・・・

- ① 9年間同じ学校にいるため、人間関係が固定化されやすい。
- ② 小学校高学年におけるリーダー性の育成が阻害される可能性の指摘。
- ③ 小学校卒業の達成感がなく、中学校への新鮮さが無い。(小学生気分が抜けにくい)

本当ですか??みなさん!**そんなことはない。**
工夫と特色の見せ所です!!!

○保護者や地域の方からは・・・行事はどうなるの? 制服はあるの?などの意見が出されています。



「よこのひろがり」を育むコミュニティ・スクール

この仕組みを充実させることで、こどもも大人もともに学び育つ学びの拠点をつくりたい!

コミュニティ・スクール(地域連携)とは

学校と保護者や地域のみなさんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働しながらこどもたちの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」をすすめる仕組み。

★大切なこと★

- ① みんなで知恵を出し合うこと ⇒ 多様な立場の人が集い対話し、取り組みへとつなげる。
- ② 協働すること ⇒ とともに活動に参加して、大人の持ち味もいかして、こどもたちの学びや成長を支える。

①と②を一体的にすすめることがCSの充実において大事

① 学校運営協議会

学校運営協議会は、保護者、地域住民、ボランティア代表など、多様な立場の方が委員となり構成されます。学校運営の方針などを協議し、意思決定を行います。意見を述べるだけでなく、その実現に協力する責任も伴います。OKではなくLet's(みんなで一緒にこんなことしてみよう!)の組織です。



【CS運営委員会の様子 こどもの意見を聴く場にもなっています】

充実した



C・S

② 地域学校協働活動

おじいちゃん、おばあちゃん、保護者、若者などの地域住民や地元企業・団体などいろいろな人に参加していただき、学校と地域全体でこどもたちの学びや成長を支えるとともに、地域と学校がパートナーとなり、連携・協働して行う様々な活動のことです。



【町内の学校の地域学校協働活動】
各校で様々な活動が展開されています。



「余白」と「つくりこみすぎない」

こどもも教職員も主体的に動き出し、創造的な取り組みをするために
「つくりこみすぎない」、「余白をうむ」という意識をもって
施設整備を進めることを基本とします。（統合学校整備基本方針7ページより）

- ・ 既存の中学校校舎をいかしながら、新規に建設する校舎と一体感のある施設にする。
- ・ 多様な人々のつながりをうみやすい施設にする。
- ・ こどもと大人がともに学び育つことを支える施設にする。
- ・ 誰もが心身ともに安心して過ごせる、多様なタイプの居場所や学び方が認められる施設にする。

※余白をうむ：居心地の良さから生まれる心の余裕 一つの使用方法に縛られない可変性のある空間
主体的に創造的にチャレンジする時間

※つくりこみすぎない：開校後もこどもたちや教職員の自由な発想を大切に、常に進化しようとする意識。

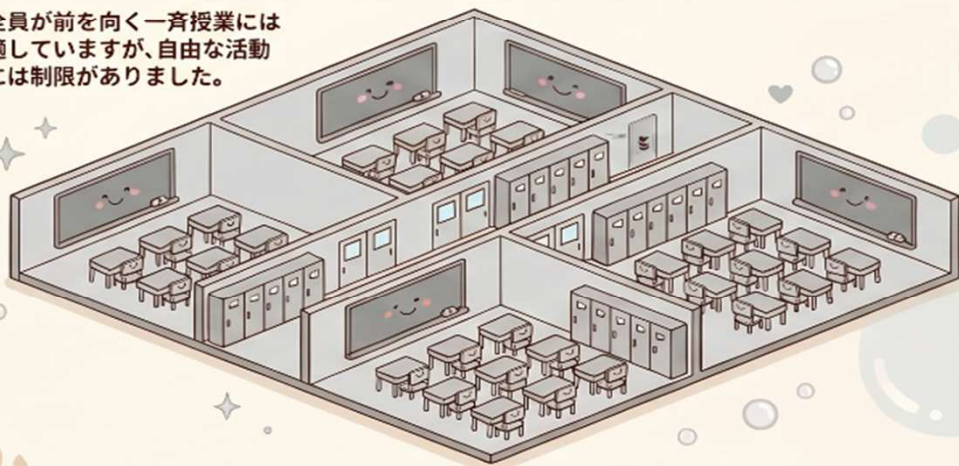
「余白」と「つくりこみすぎない」(具体イメージ)

山ノ内町の新しい学校づくり：みんなで育てる「余白」のある学び舎

従来の「固定された教室」から、時代や目的に合わせて柔軟に形を変えられる「進化する空間」へ。

役割が「固定」された従来型の教室

全員が前を向く一斉授業には適していますが、自由な活動には制限がありました。



使う人にあわせて「変幻自在」な未来の空間

壁や机が動き、廊下と教室がつながることで、多様な学びが生まれます。

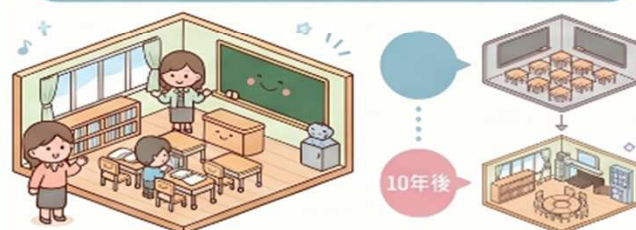


可能性を広げる「余白(よはく)」



廊下や共有スペースを、自習や対話、地域交流が生まれる自由な居場所にします。

進化し続ける「つくり込みすぎない」設計



10年後の技術や新しい授業に合わせ、家具や壁を柔軟に変更できる設計です。

子どもが主役の空間デザイン



子どもたちが自分たちで「どう使うか」を考え、カタチにできる学校です。

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

会 議 名	第 11 回山ノ内町立学校づくり準備委員会（専門部会合同会）	
日 時	令和 8 年 5 月 19 日（火） 午後 5 時～午後 7 時 20 分	
会 場	山ノ内町文化センター 3 階ホール	
出席・傍聴人数	出席 39 人 / 欠席 2 人	傍聴者 11 人
	ユースサポーター 6 名出席（うち 1 名オンライン）	
会議内容	・令和 8 年度第 1 回目の会議であることから、交代や新規による新たな委員に対して、委嘱及び任命を行った。 ・令和 8 年度より、山ノ内町出身の高校生・大学生から学校づくりに参画してくれる学生を募集した結果、10 名の応募があり、今後、ユースサポーターとして会議に参加する旨説明。 【報告事項】 （１）山ノ内町立統合学校整備基本方針について（資料 1） これから作っていく新しい学校の大切にしたい 4 つの学び（ESD・スポーツ芸術・グローバル教育・人権教育）と 4 つの学びを支える「たてのつながり」「よこのひろがり」を中心に、委員の交代等もあったため、振り返った。 （２）山ノ内町立義務教育学校整備基本・実施設計業務委託について（資料 2） 新しい学校の設計業務を委託する候補者が株式会社宮本忠長建築設計事務所に決定した旨、報告。 【会議事項】 （１）専門部会の構成及び構成員について（資料 3） 学校づくり準備委員会と専門部会の関係性及び各専門部会の役割が説明。また、専門部会の部員構成について、事務局（案）のとおり承認。 （２）今後のスケジュールについて（資料 4） 学校づくり準備委員会の今後のスケジュールについて、説明。 令和 8 年度においては、学校名・校歌・校章の検討を進めるとともに、各専門部会からの検討事項やその他検討が必要なことは随時、学校づくり準備委員会で協議される旨、説明。 （３）準備委員会及び専門部会の開催通知等におけるアプリについて	

	今後、スマートフォンアプリ「band」を用いて、開催通知及び資料配布等を行うことについて説明。（※「band」を扱えない方は個別対応） 「band」アプリの使い方についても説明。 【各専門部会からの共有】 各専門部会が開催されたのち、学校づくり準備委員会で各専門部会の代表から話し合われた内容の共有があった。（各専門部会の会議録による）
決定事項等	・ 専門部会の部員構成 ・ 学校づくり準備委員会の今後のスケジュール

令和8年6月17日 第12回学校づくり準備委員会



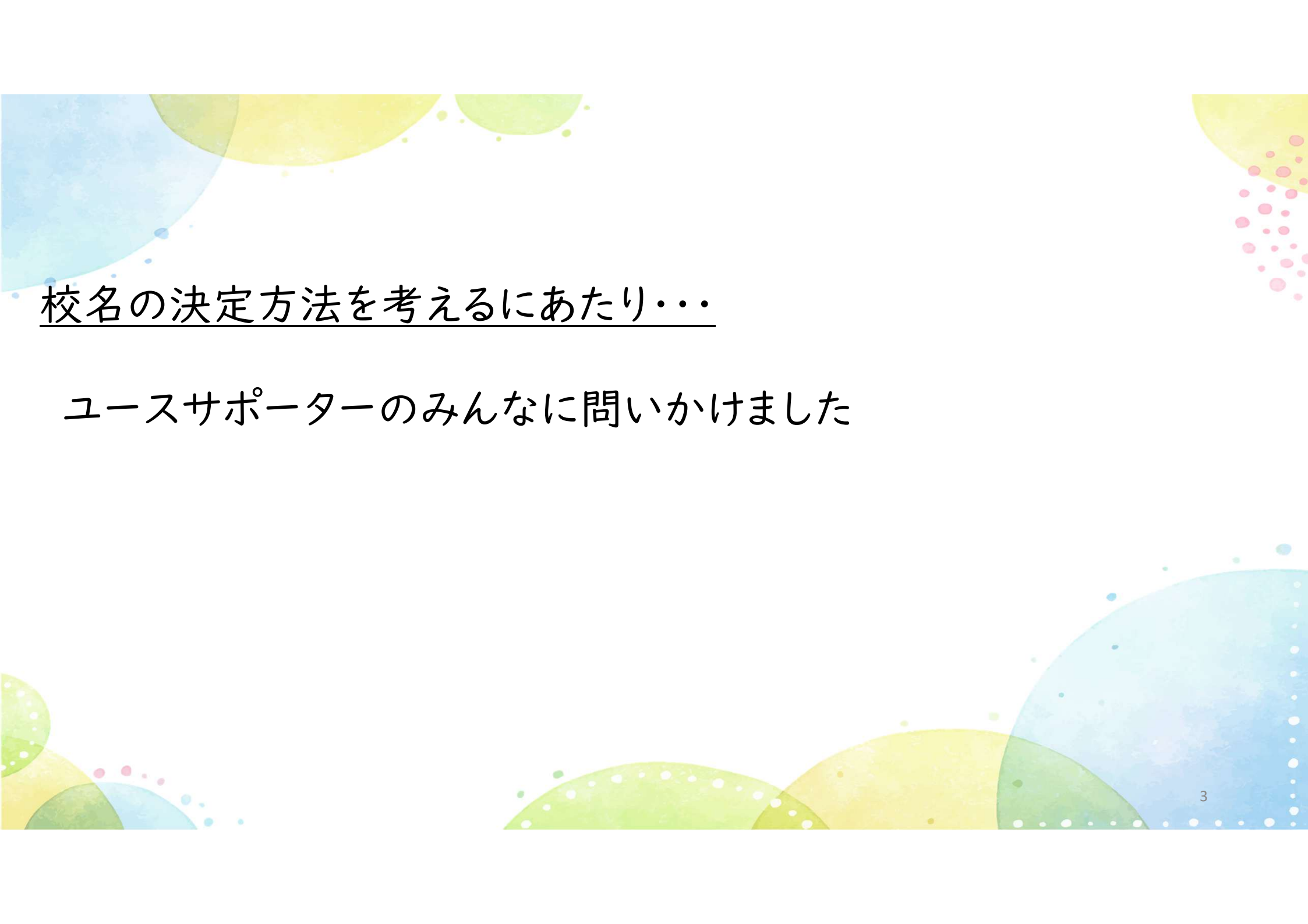
校名の決定方法について

検討にあたっての前提条件

以下の理由から、山ノ内町に住む人が何かしら携わることのできる 決定方法とする

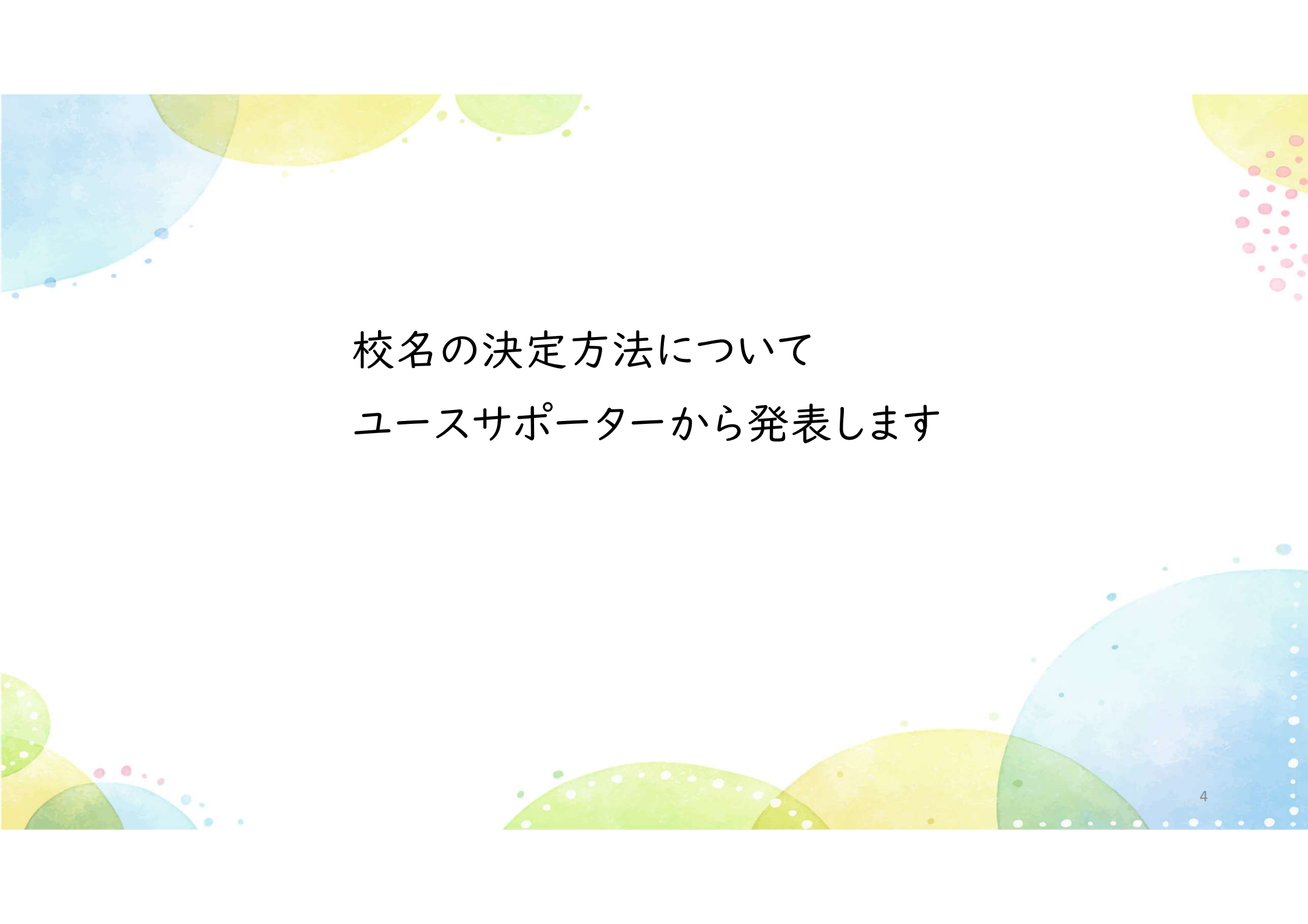
理由① 町民の関心も高く、ひとりひとりに意識をもってもらいたい
ため

理由② 町民のお金を使って新しい学校を作るため



校名の決定方法を考えるにあたり・・・

ユースサポーターのみんなに問いかけてました



校名の決定方法について ユースサポーターから発表します

発表者自己紹介

- ・名前
- ・出身の小学校
- ・現在通っている学校
- ・ユースサポーターに応募したきっかけ
- ・新しい学校づくりへの思い

校名決定方法 ステップ①

全町民を対象に校名を募集

校名決定方法 ステップ②

応募された校名の中から、学校づくり準備委員会・ユースサポーターで3案～5案程度に絞り込む

※絞り込む際はテーマを決めて絞り込む。

(例)

- ・山中、西小など省略しても伝わる・親しみやすい名前
- ・画数がある程度少ない漢字(10画以下)を使う
- ・5文字以下の校名

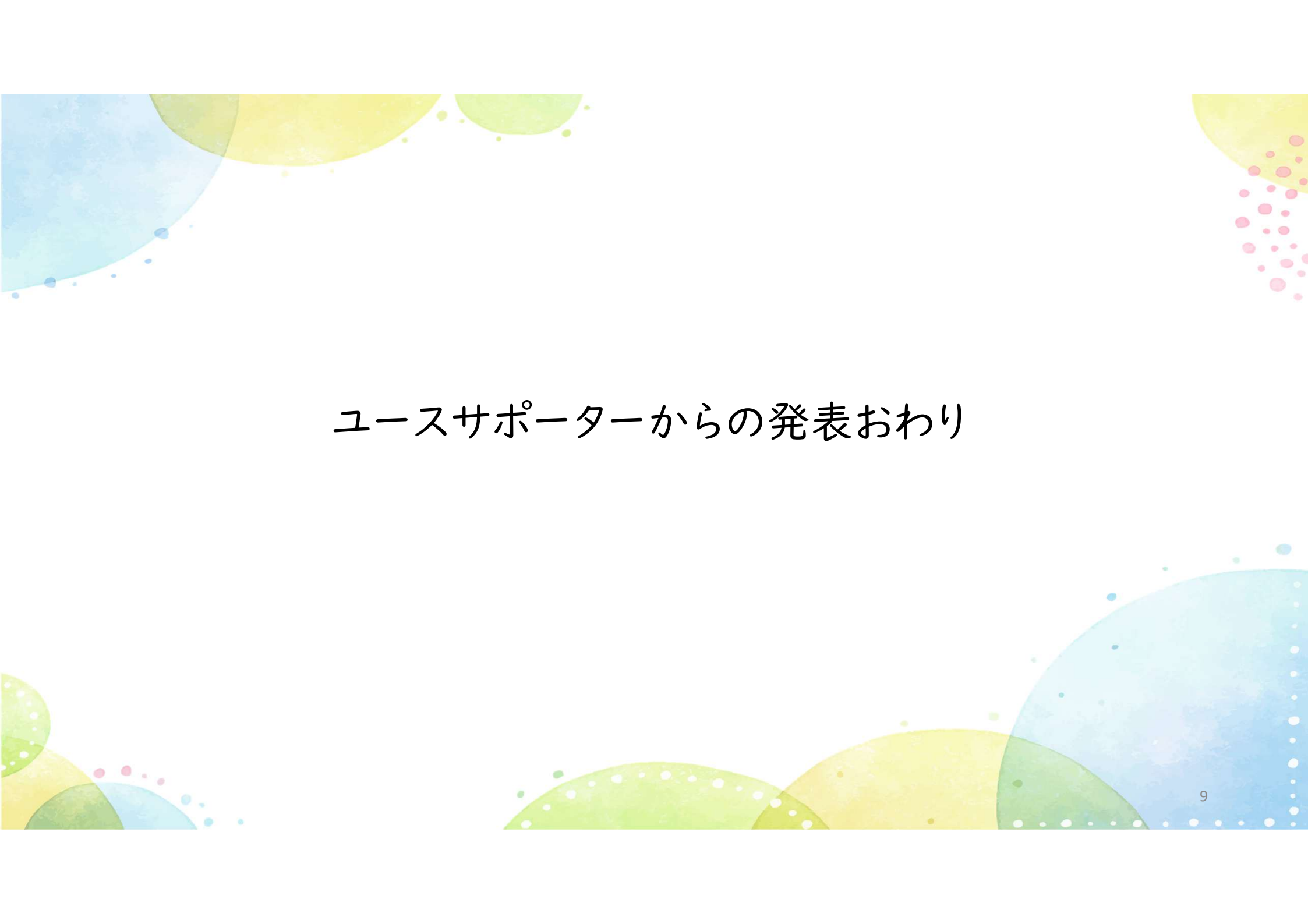
などなど

校名決定方法 ステップ③

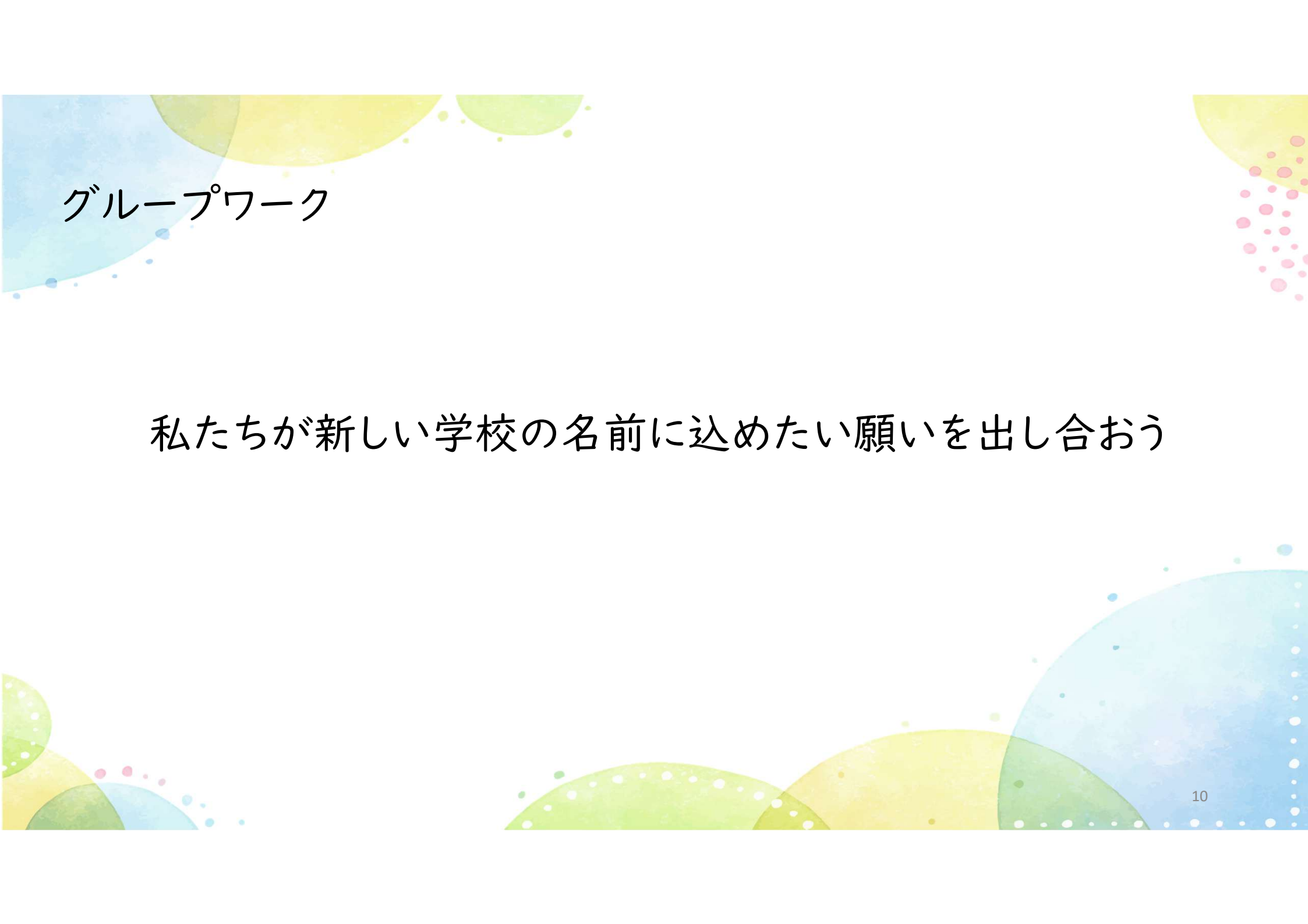
絞り込んだ案について、対象者を決めてアンケートする

※対象者については、
(例)

- ・将来義務教育学校に自分のこどもを通わせる保護者
- ・現在学校、保育園に通う園児（保護者）・児童・生徒
- ・20代から30代の若者も含める などなど



ユースサポーターからの発表おわり



グループワーク

私たちが新しい学校の名前に込めたい願いを出し合おう

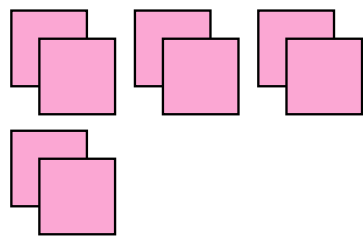
本日のキャプテン

グループワーク(校名に込めたい願い)の進め方

- ①未来軸・・・「こどもたちの未来」をベースに考える
グローバル?思いやり? どんなこどもたちに育ってほしいか書き出してみる
- ②地域軸・・・「この町といえば」をベースに考える
自然? 山ノ内町といえばなんだろうか書き出してみる
- ③響き・デザイン軸・・・「校名の親しみやすさ・呼びやすさ」をベースに考える
ひらがな?漢字?シンプルなもの? 具体的に書き出してみる

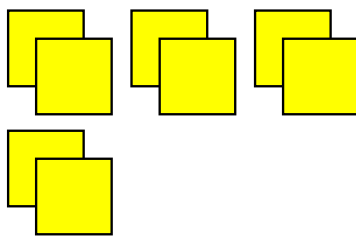
模造紙の使い方

①未来軸



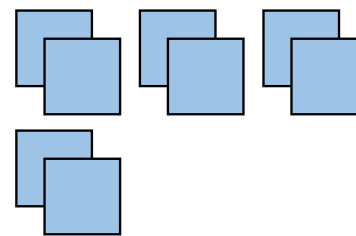
ピンクの付箋でどんなこどもたちに育ってほしいか書き出そう

②地域軸

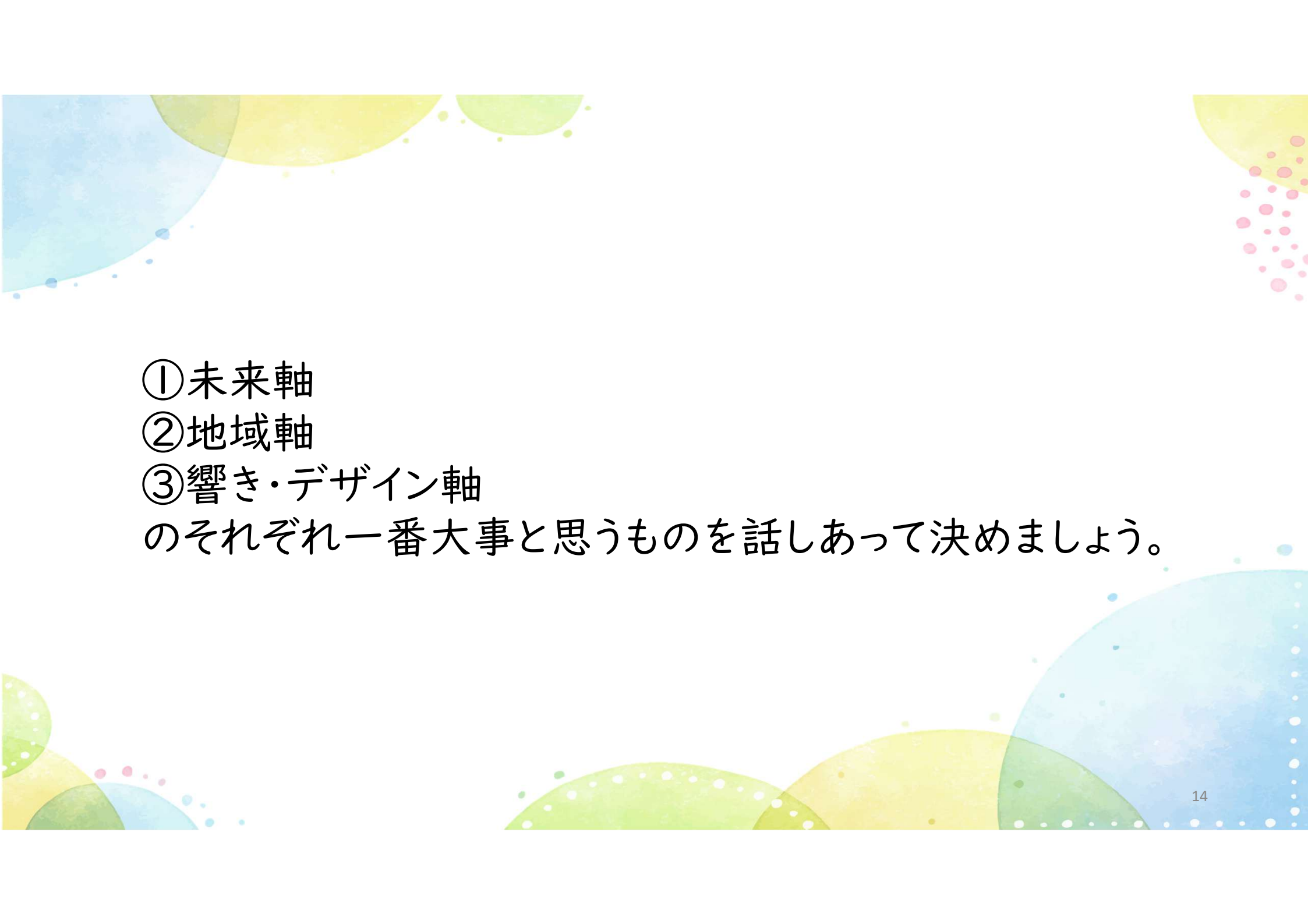


黄色の付箋でこの町のたとえば?を書き出そう

③響き・デザイン軸



青色の付箋で「ひらがな」・「山ノ内」を入れるなど構成案を書き出そう

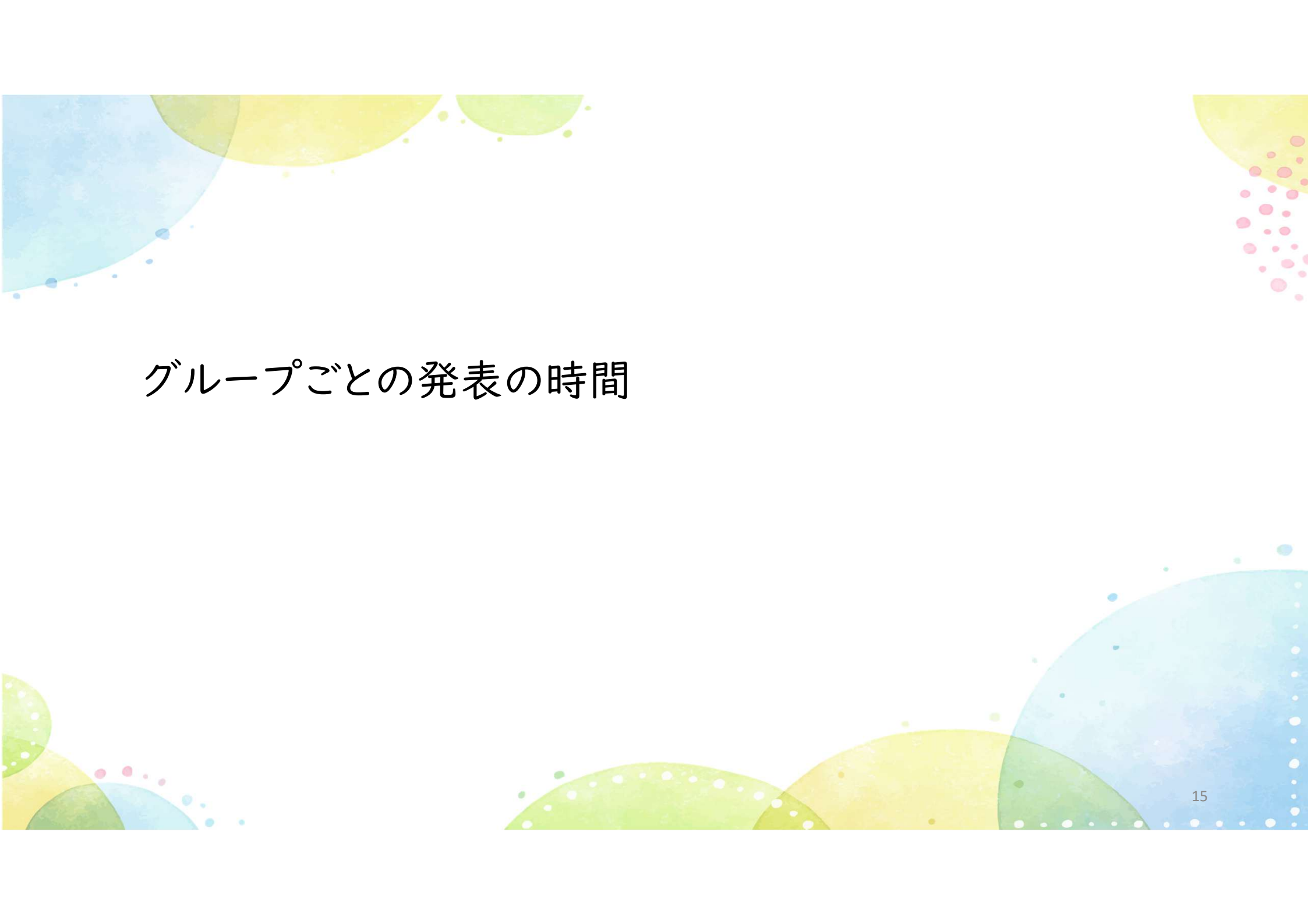


①未来軸

②地域軸

③響き・デザイン軸

のそれぞれ一番大事と思うものを話しあって決めましょう。



グループごとの発表の時間